

新 生

赤富士の
赤は幸福
招く色



小富士

東北新生園入所者自治会

平成二十五年十二月 十日印刷
平成二十五年十二月 二十日発行

新生第六十五巻 第四号

新 生

平成二十五年十二月 十日印刷
平成二十五年十二月 二十日発行

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男42名 女53名 計95名
職員定員数	153名（平成25年4月1日現在）
園長	医学博士 横田 隆

東北新生園交通案内図



第六十五巻 第四号

園内日誌

平成二十五年 七月～九月

《七月》

四日 宮城県ハネル展見学バス旅行(宮城県庁)
第十八日 第二十三回参議院議員通常選挙不在者投票
二十日 第十五回花火大会
二十五日 福島県慰問
岩手県慰問
茨城県藤楓協会慰問

《八月》

四日 共産党県議団来園
十三日 楓会お盆行事(納涼抽選会)
三十日 登米市議会議員四名園内見学

《九月》

六日 東北新生園物故者慰霊祭
十一日 秋田県慰問
十三日 敬老の集い
十九日 登米市新田中学校交流演奏会
二十九日 寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会

【謝寄贈図書館】

平成二十五年七月～九月(敬称略)

甲田の裾	菊池野	高 楓	始 良	愛 生	多 磨
青森県	熊本県	岡山県	群馬県	鹿児島県	東京都
松丘	菊池	邑久	栗生	星塚	長島
保 養	恵 楓	光 明	泉 泉	敬 愛	全 生
園	園	園	園	園	園

第15回寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会

－ 平成25年9月25日(火) －



◀ 選手宣誓
仙台ペガサスチーム



新生フラガールズ ▶

当園総看護師長、副総看護師長
各センター看護師長 チーム



平成25年12月10日 印刷
平成25年12月20日 発行

発行所 東北新生園楓会(自治会)
編集 楓会文化部
印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

発行所 東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十五巻第四号……………目次

表紙…「赤富士」……………桃生 小富士

ご挨拶……………会計班長…黒沼 和仁…(2)
よろしくお願い致します……………看護助手…武田 さおり…(4)
よろしくお願い致します……………看護助手…澤野 和子…(5)
初めての仕事……………看護助手…鈴木 美和…(6)
随筆「望遠鏡」……………今野 きよし…(8)

|| 新生文芸 ||

詩……………選者…佐々木 洋一…(11)
短歌……………選者…長田 雅道…(13)
俳句……………選者…山田 桃晃…(14)
川柳……………選者…栗石 隆子…(16)
好きな作品……………医療社会事業専門員…新妻 淑…(18)
三尺左吾平物語……………北村 小蝶…(20)
随筆「渡し船」……………今野 きよし…(24)
園内日誌・謝寄贈図書

ご挨拶

会計班長 黒 沼 和 仁

平成二十五年十月一日付けで独立行政法人
仙台医療センターから着任しました。黒沼と
申します。よろしくお願いいたします。

東北新生園は、二度目の勤務となります。
一度目は平成九年四月から平成十二年三月ま
での三年間、福祉室に勤務させていただき大
変お世話になりました。その時に生まれた息
子も中学三年生となりました。改めて月日の
経つのは早いものだと感じております。

以前勤務していた時は、現在のような大変
立派でまるでホテルのようなメープルケアセ
ンターや訓練棟、さくらホール、さくら公園
は、まだありませんでした。

の湯」。勿来にある太平洋に面した海水浴場
のすぐ隣にある「関の湯」では、三階にある
露天風呂から海を眺めながら入る温泉もよ
かったです。映画「フラガール」の舞台と
なった「スパリゾートハワイアンズ」もプー
ルがあったり、いろんな種類のお風呂などが
あり大変大きな施設でした。

山形県では、天童市内にある天童温泉の
「ゆびあ」は営業開始当時からずっと入浴料
が二百円と安かったのですが、原油高の影響
で三百円になったのを覚えています。（それ
でも安いと思いますが。）

秋田県では秋田市にある「こまちの湯」は
風呂の数も沢山あり、湯上がりの後はテレビ
が付いたリクライニングチェアでくつろぐ
ことができました。また、由利本荘市にある
道川の道の駅の中にある温泉は、海水浴場の
すぐ近くにあり、海水浴の後に露天風呂から
見る日本海の夕焼けも最高でした。

園内を見て廻りましたが、当時は沢山あつ
た一般寮も取り壊されておりました。ここに
は「〇〇寮の〇〇さんが住んでいたな」と思
い出しながら園内を廻りました。

園内の行事も随分少なくなったと聞いてお
ります。改めて入所者の方々のご高齢化も進
み不自由者棟に移られたんだと思いました。

さて、趣味といったものが特にない私です
が、二十代のころは絶対に入らなかった温泉
も三十代に入ってから、転勤を機会に日帰り
温泉に出かけるようになりました。転勤先で
出かけた日帰り温泉のことについて少し書き
たいと思います。

青森県青森市では、浅虫温泉近くの道の駅
の中にある温泉や映画館やゲームセンターな
ど複合施設内にある「コロナの湯」などに行
きました。

福島県いわき市では、湯本温泉の「さはこ

宮城県では、仙台市泉区の自宅の近くにあ
る「竜泉寺の湯」も風呂の数が多く、岩盤浴
も数種類あります。田尻町の「さくらの湯」
にも何度か足を運んだこともあります。

温泉もその地域により、いろいろな特色が
あるものだなと思います。

とりとめのないお話になってしまいました
が、最後にこれからエネルギー棟の整備工事
も予定しています。まだまだ業務に慣れてお
りませんが、当園の理念の中にある「入所者
の人権を尊重し、安心で安全な生活を提供し
ます」の理念に基づき入所者の方々、職員の
皆様の協力を得ながら業務に励んでいきたい
と思いますので、よろしく願いいたしま
す。

よろしくお願い致します

看護助手 武田 さおり

この度、八月一日付けで看護助手として第一メープルケアセンターで、勤務させて頂いております、武田さおりと申します。

東北新生園は、バージョン6の取得と機能的に高い評価を受けられており、また膨大な敷地には驚かされました。園内もきれいに整備され、南向きの居室の窓からは、緑豊かな景色が眺められてとてもすばらしい環境であります。

私事ですが、十二年間病院で看護助手として内視鏡、内科病棟、療養病棟で働いておりました。なぜ、病院で働く事になったかと申しますと、子供が小さい時、小児科の受診をした時の事です。看護師さんから、「看護助

手の募集しているから、受けてみない」と声を掛けて頂いたのが、きっかけとなりました。

その後、病院移転の為療養病棟新設にあたり、ヘルパーの資格を取得しました。今、クオリティー・オブ・ライフが求められており、いかに個人にとって「生活の質」が重要であるか。また、入居者様が持つ生活機能の維持、改善が図られ疾病予防、機能低下予防など健康推進が高められ、一人ひとりの生き方や暮らし方が最大限尊重できる様、支援していければと思っております。

最後になりますが、勤務して三ヶ月になりますが、まだまだ分からないことが多く仕事の難しさを痛感している所です。スタッフの皆様さんや、入居者様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、皆様から快く教えて頂き感謝しております。一日でも早く、一人前として仕事ができる様努力したいと思っていますので、今後ともよろしくお願い致します。

よろしくお願い致します

看護助手 澤野 和子

皆様こんにちは。（もしかしたら、こんばんはかもしれません）山鳩センターで看護助手として勤務することになりました澤野和子と申します。

出身は岩手の一関です。仕事で栗原市に転勤になり、以来二十数年間築館に住んでおります。同級生にはそろそろ孫もできそうなのに、未だ高二・中一・小五と三人の子育ての真最中です。（適齢期に婚期をまんまと逃した結果です…）

前職は病院勤務でしたので、もしかしたら皆様ともお会いしていたかもしれませんね。

さて、こちらに採用頂いてから早いもので三ヶ月が経とうとしています。先輩方には初

日より丁寧にご指導頂き、入居者の皆様には暖かい目で見守って頂きながらの、あつと言う間の三ヶ月でした。

まだたったの三ヶ月ですが、この間実に様々な行事や催しがあり、驚いています。

「納涼会」「ミニ運動会」「おにぎり昼食会」、センター内だけでも月に一度は何かしらの催しがありますが、どの行事も入居者の皆さんとスタッフとの一体感が素晴らしく、お腹を抱えて笑ってしまうほど楽しいものばかりで、笑顔のコミュニケーションとはまさにこのこと。短い時間の中であっても笑い声の飛び交う楽しくて賑やかなひと時です。皆さんの笑顔に私のほうが、元気とパワーを頂いています。

この度ご縁がありこの東北新生園に勤務できたこと、素晴らしいスタッフと入居者の皆様に出会えたことを感謝し、入居者の皆様はその笑顔を絶やさず毎日を送れるように、微

力ではありますが自分に出ることを自分の
精一杯で頑張りたいと思っています。
いまだに間の抜けた失敗でご迷惑をおかけ
している私ではありますが、
どうぞ

よろしくお願い致します！



冬の園内
クリスマスイルミネーション



初めての仕事

看護助手 鈴木 美和

この度、十月一日より看護助手として勤務
させて頂くことになりました鈴木美和です。
今まで、老人福祉施設で働いておりましたが、何か挑戦してみたいと思い、こちらの東
北新生園で働くことに決めました。初めてで
ドキドキしておりましたが、園内はとっても
広く、施設も色々と完備されて安心して過ご
せる環境に思いました。

こちらに勤務して三週間になりますが、仕
事の流れや入所様様の対応の仕方が分からな
く右往左往している私に、優しく丁寧に教え
て頂き、おかげ様で思ったより早く仕事の流
れが掴めるようになり、先輩方に感謝してお

ります。

毎日不安になりながら、メモを何度も読み
返したりしながら業務をして、覚えるのに必
死になり笑顔も出来なかった日々。私にはム
リかなあ...としたりしましたが、でも今
は、まだ失敗もあり、先輩方にフォローして
もらいますが、入所様や先輩方と楽しく笑
顔で接する事が出来て楽しい毎日です。

早く覚えて、周りの人達に迷惑をかけない
よう努力して早く一人前になりたいと思いま
す。

私が働いていて思った事があります。職員
全員が入所様様を大切にして対応しているこ
と、その人を中心としたケアをしていてすご
いなあと思いました。福祉の現場だと、業務
優先になってしまう時がありました。ここで
は、入所様様との関わりの時間もあり、自分
の担当の入所様とゆっくり対応することが
出来て、仕事の遅い私でも接する時間がもて

て嬉しいのです。全員で行う歌体操（鬼のパン
ツなど）とても楽しいです。

まだまだ、ど素人な私で皆さんに迷惑をか
けてしまっているなあと感じています。これ
からは迷惑をかけないように自己啓発に務め
知識だけでなく実践できるように頑張りたい
と考えています。

“宝の山に入りながら手を空しくして帰る”
にならないようにしたい。

これからも皆さんに教えて頂きながら、頑
張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い
致します。



A 息子 B 母

A 母ちゃん望遠鏡つていろいろあるのか
B あると思うよ
A 望遠鏡だから山の蔭まで見えるのであるのか
B あるかも知れないし無いかも知れない
A ほだらばカーブして見えるのがあるとええね
B そんなに遠くまで見て何するのや
A こっちに居て、遠くも見えて山の向こうも見えたらええと思つて
B そんなに良い物あつたら母ちゃんも欲し

A いな
B ほだべ母ちゃんだつてそう思うべ
A それはそうだな
B 道路だつて、あの曲がり角のところ誰か来るの見えたらええべと思つて
A そんなに遠くから来る人見て何するのや
B 学校の先生、家庭訪問に来た時なんか
A 学校の先生に來られて都合悪いことあるのか
B おら学校の成績悪いもの、先生來た時、悪いこと語られたら嫌だものすぐ隠れる
A そのとおりだものえがんべ
B おら嫌だ、茂君も云つていた
A なんて云つていた
B 昨日、先生家庭訪問に來ていろいろ話して行つて嫌だつたつて
A 茂さんの姉ちゃん成績も良いし、第一言葉遣いが良いからな
B ほだべ、姉ちゃん学校も出来るし優しいし

B ほだらばおまえも、言葉遣い良くしたらえがんべ
A おれ誰に似たのかな
B 誰て云うことなかんべ
A ほだら何か都合悪いことあるの
B 何もないさ
A さっきの望遠鏡の話だけれども、道路曲がり角でも見えたらえがんべな
B なんてそんなに望遠鏡にこだわるのや
A ほだつて、そういうの欲しいもの
B ほだら、お前発明したらえがんべ
A どうして作るの曲がつて見えるような望遠鏡
B 学校の先生に聞いたらえがんべ
A 先生に何て聞くの
B 先生、山の蔭でも道路の曲がり角でも見える望遠鏡作るの教えて下さいって聞いたらえがんべ
A 先生わかるかな
B 先生だもの

A そうかな無理だと思つ
B 生徒にわからない所聞かれた時、教えてくれるの先生だもの
A 誰か居ないかな
B 自分で考えたらえがんべ
A 考えたらえがんべなんて母ちゃん簡単に云うけれども
B ほだら、日本で最初にノーベル賞貰つた湯川博士の事聞いたことあるか
A 湯川博士がどうしたの
B 湯川博士が、中間子論を発表した事聞いたことある
A 湯川博士が中間子論をか
B まだ二十代の若い時に、寝ていて寢床の中で考えついてそれを発表したということを聞いたことある
A うん、そういうことあつたの
B だからお前も朝起こしても起きないから、寢床の中で考えたらええんでないか
A ほだらおれ、寢坊だから朝寢坊がノーべ

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《星》

今 野 きよし

手をかざし
外燈さえざり
空の星を眺める

星は大小
きらきらと
まぶしいまでに

ル賞面白いね

何そんなのんきなこと云って

寝床の中で名案浮かぶか

B ノーベル賞貰ったのが六十過ぎとか云う

から大分年数過ぎてからなんだなあ

ゆっくりゆっくり考えろとええんだね

それから何考えていたのや

A B ああ、いいちゃんに聞いたんだけれど

も、この間胃力メラ飲まれたんだって

苦しかったって

そうかそんなことあったのか

A B 母ちゃん聞いたことあるのか

聞いたことない

A B 胃力メラ飲まれて、この年齢になって

これからは病院には行かないって云って

いた

A B それがどうしたの

胃力メラ飲まなくとも、口の所にちよつ

と向けただけで、胃の中まではつきり見

えるようになったらええと思う

B そうだな、母ちゃんだってそのうちに病

院に行かなければならないし

A B そうでしょう、皆んなそうなるもの

うん、ええこと考えつくな、やつぱりそ

うなったら何十年後にノーベル賞だな

A それほどでないと思うけど、そうだった

ら面白いね

B ノーベル賞の誰々の母と新聞に載って、

今年の重大ニュースなんてなったらなあ

A やつぱり母ちゃんの考えることふるって

いるね

B それでは母ちゃんも夢を見るか、朝寝の

床の中で

輝いて

相手の星を

呼び合うような

競うように

光りおり

星が言葉を

言うならば

心の中を

聞かせてほしい

無理な事だと

思うけど

星さんよ

私の呼びかけ

聞いてくれ

この願い

いつの日

とどくのか

やつきとなって
星を眺める

わずかな時間
見ない間に
光りはうすれ
大気の影響
受けたのか
弱い光りの
星となる

雲のかげから
光りうすれた
星を眺める
いつまでも

【選評】

《星》

今野 きよし

「星が言葉を／言うならば／心の中を／聞かせてほしい」という行から、作者の深い思いが伝わってくる。星を前に人間存在の危うさも感じる。



短歌

長田雅道選

◇ 入 選 ◇

佐藤 つや子

使い捨ての容器の牛乳飲みながら容器の移り変わりを思う

【選評】

生きていて忘れてしまうことはあまりに多い。多くの人が忘れてしまっていることを一首にまとめたのは、すばらしい。

今野 きよし
故里の近くに住みてひとたびは訪ねて
みたく時々思う

【選評】

ふるさとを思う心がよく表現されている。近いふるさとに帰れない作者の思いが胸にひびく。

◇ 佳 作 ◇

佐藤 つや子

療園に卒寿迎えて町よりの祝い金頂く敬老の日
入園は十代なりき欠乏に耐えきて療園に卒寿を迎う
また一人話し通ずる友逝きて我が身の巡りさみしくなりぬ
車椅子に押されて午後を園内散歩盲導鈴つえ音絶えて久しき

認知症の親を看取れる姪の来て言葉明
るきに安らぎており

今野 きよし

耳遠く話はよくは聞き取れぬそれでも
すぐに相槌を打つ
ベランダに鉢を並べてそれぞれの花の
特色眺めて楽し
遠慮する心がうすれ頼み事あっさりし
ている吾れに驚く
リハビリの部屋新しく造られて午後の
三時に見学に行く
笑顔にて話をかけて来るようなひまわ
りの花親しく眺む
笑い声絶えることなくリハビリを受け
つつ聞きぬ明るい声を

俳句

山田 桃晃 選

◇ 入 選 ◇

災害の避難の広場草紅葉
今野 きよし

【選 評】

東日本大震災は海辺ばかりで
はなく山間にも大なる被害があ
り、崖崩れ、土積流等さまざま
な個所がある。避難広場もやっ
と落ちつき紅葉の季節、悲し
かった、淋しかった刻の思いを
忘れて生きてゆきたい。

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし

中学生合唱慰問さわやかに
遠廻り今日は許され木の実降る
外燈の笠の曇りて天高し
物足りぬ顔して妻の秋彼岸

斎藤 照雄

稲を刈る農夫の指先ほほえみり
御歌碑を真赤に染めて紅葉燃ゆ
御歌碑へ行く径々に咲くりんどう
深みゆく秋の中なる酒の味

園 永 泊

肩を寄せ合わせて嶺々の眠るかな
思い出の歩く山路に秋深む
それぞれに散葉日記の一ページ

石ころの振り向くところ秋の声
園 永 泊

【選 評】

石ころにも色々ある。道端や
崖つぷちにかわいい孫の顔が二
重三重にも。おじいちゃんとか
すかな風の中、爽やかな声が明
日も逢えることを。

田に出でて稲穂を拾いし農夫かな
斎藤 照雄

【選 評】

昔も今も農家の生活はほとん
ど変わらない。一家総出で稲穂
拾いの思い出が懐かしく、昨今
は雁の群れが押し寄せて田をき
れいにしてくれる。下五の農夫
かなに力がある。

川柳

雫石隆子選

《地位》
合掌をすれば心も空も晴れ
桃生 小富士

【選評】

目に見えぬものへ手を合わせる。作者の日常に祈りは欠かせぬものになっているのでしよう。透徹した心境が窺える作品。

◇ 入 選 ◇

《人位》

今井 青風
葉病を透かして見てる赤トンボ

【選評】

病気や害虫にむしばまれ、変色した葉を見ている赤トンボ。作者は自身を重ねて景色を切り取ったのかも。加齢をみつめる作者である。

《天位》

人の世の乱れ地球の貌ゆがむ

桜山 南仙

【選評】

人心の乱れが、きな臭い社会をつくる。想定外の天災も人の驕りのツケかも知れない。句柄の大きさは、作者の心の大きさであらう。

◇ 佳 作 ◇

桃生 小富士

赤富士の赤は幸福招く色
被災地の法要秋の風が哭く
爽やかな風とコスモス話してる

斎藤 照雄

栗の実の取られまいとて栗のイガ
ドンギリと遊ぶ者なく坂転げ
湯の宿へ来て闘病リフレッシュ

今野 きよし

赤とんぼ悠々自適民謡唄う
赤とんぼ一つ褒められ浮上がる
ぼやき節ぼやき疲れて丸い顔



桜山 南仙
女三人寄れば言葉が丸裸
年だなあかえる山彦よろよと
代筆のペンの先より秋の声

今井 青風

正確に動いてくれる腹時計
酒飲みの握手に少し嘘がある
考えて言えば良いのにあわてん坊

好きな作品

医療社会事業専門員

新妻

淑

「新生」の表紙を描いていらつしやる桃生小富士さんの作品の中で私の好きな作品をご紹介しますと思います。小富士さんは、昭和二十八年頃から川柳を始め、戸伊摩誌（現新生誌）に投稿を始められました。といま川柳社に入り、一九六八年から二〇〇二年まで代表を務められました。皆さんもご存じの通り、川柳や絵などを中心に沢山の作品を作られています。平成二十二年には東京の国立ハンセン病資料館や仙台文学館で、川柳を添えた絵を紹介する個展を開いたことでも有名です。個展に出された作品の中で、私は『通草（あけび）』という作品が好きです。この作品には、

だなあと思いました。

ある日、小富士さんに一か八か私にも詩を書いていただけないかお願いしてみました。

しかし、「あなたの名前は難しいなあ。期待しないで。」と言われ退室しました。

それから一週間。介護員さんに小富士さんが私を呼んでいると教えていただき、お部屋に訪室しました。訪室して驚きました。なんと、私のフルネームで七行詩が完成したというのです。気持ちが高まりました。名字や名前だけでも難しいと言われていたのに、フルネームで作って下さったのです。小富士さんは「ちゃんと最後は結婚させてあげたからな」と私に言いました。小富士さんの気持ちが込められていて、本当に嬉しかったです。思いがけないプレゼント、本当にありがとうございます。

「いい事が ありそう通草 大笑い」という川柳が添えられています。大きく口を開けた通草が躍動感にあふれていて、元気が湧いてくる作品です。

また、小富士さんの詩集「海は…僕の色」に掲載されている川柳で好きな作品は、「君と会うページが用意されている」「君と手をつなげば春の風嫉妬」「噴水が陽と恋をして虹を生み」

小富士さんの作品は故郷への切ない想いや季節感あふれる情景が表現されている作品も多いですが、恋について詠んだ作品は、不思議と恋をしていない時でも、まるで今恋をしているかのような気持ちにさせられます。

今年の九月、新生第六十五巻第三号で小富士さんの三行詩、四行詩を拝見しました。看護師さんや介護員さんの名前の頭文字を使い、その方に合わせた詩を詠まれていて素敵

私が一番好きな作品は、これです。

につこりと頬笑む胡蝶蘭
いつも笑顔忘れずに
つくしてみたいあの人を
まことの愛が叶うまで
しつかり掴んで離さない
夢はいつしか結ばれて
くろう承知の祝い酒



桃生小富士作
「通草（あけび）」

随筆

三尺左吾平物語

北村 小蝶

私の実家は大崎市松山です。もとは志田郡松山町でしたが、古川市などと合併し、大崎市となりました。大崎の地名の由来は、もともと古川に大崎氏という武将の居城があったからだそうですが、私の実家のある松山の有名な武将といえば茂庭氏です。茂庭氏は代々伊達氏に仕えており、以前大河ドラマ「独眼竜政宗」で渡辺謙が伊達政宗を演じたとき、いかりや長介が茂庭左月良直を演じました。茂庭左月良直は人取橋の合戦の際に年をとっていたので重い甲冑を着ることができず、鎧も冑もつけずに参戦し、政宗を逃すために戦い討死したそうです。

この君主思いの茂庭左月もさることながら、伊達家に仕えた凄腕の忠臣がもう一人松山にいたのでご紹介します。その名も三尺左吾平です。

三尺左吾平の生まれは、松山の町中から酒蔵「一ノ蔵」の工場方面へ抜ける通りにある入町^{いりまち}という地名だそうです。本名は田中左吾平といったそうで、その呼び名の通り身の丈三尺三寸しかないお侍でしたが、身丈に似合わない大刀を腰にしており、刀の鞘の末端には自分で細工をして小さな車をつけていたそうです。きっと左吾平が歩くとコロコロカラカラかわいい音がしたのではないのでしょうか。

この左吾平はその見た目とは裏腹に大変剣術の腕の立つ人だったそうで、数々の逸話が残っています。

天保十二年のこと、恐ろしく腕の立つ道場破りが領内へやってきました。各地の道場を荒らしまくり、ついに明日は領主^{なりも}舩元候の御

前試合となっていました。どのようにしたら道場破りに勝つことができるのか思案していると、そこへ三尺左吾平がやって来てこう言ったそうです。「心配御無用、明日のことは拙者にお任せください。拙者不憚ながら一案ござる。」

そして左吾平は後輩を連れ、その足で道場破りのもとへと向かいました。そして道場破りに挨拶をしたあと、居丈高にこう言いました。「さてさて、いよいよ明日は御前試合でござる。その前に、当道場の掟を聞いて頂きたい。当道場では道場主と試合をする前に、門下生の一人と技を競い合っていた。門下生がやってみせた技と同じ技が出来にならなければ、当道場主と直接試合をすることは到底かないませぬ。今宵は末輩の拙者が参った次第でござる。では御覧あれ、いざ！」

左吾平は蠟燭に火をつけると、後輩に手渡ししました。後輩は蠟燭を手に取ると額に押し

当て、鉢巻できりりと締めました。左吾平は袴を高々と捲り上げて、愛刀をぎらりと引き抜いて、やッ！と裂帛^{れき}の気合もろとも斬り下ろせば、なんと蠟燭は見事に縦真つ二つ、火は消えず、しかも額には傷ひとつつかないありさま。

あまりの見事さに道場荒らしは慌てふためき、その夜のうちに早々に荷物をまとめ、姿をくらましてしまったとのことでした。

また、三尺左吾平は大変健脚な人だったそうです。松山から仙台まで約四十キロあるのですが、左吾平は夕食後にぶらりと仙台まで遊びに出かけ、真夜中にはちゃんと帰ってきて寝ていたということがしばしばあったようです。

ある満月の夜、七北田の七曲の山道にさしかかった時、草むらの蔭でそこそと動くものがありました。よく見ればなんと狼ではありませんか。流石の左吾平もぎょっとして身

構えましたが、狼は飛びかかってくる様子もありません。左吾平が目を凝らしてよく見ると、狼の顎に何かの骨がひっかかっていたのです。「よし、いま取ってやるぞ。じつとしていなされ。」狼の鋭い牙の間に指を入れてとってやり、「お前、欲が深いからこんな目にあうのだぞ。以後気をつけられよ。」と頭をなでました。狼は尾を振りながら体をすり寄せお礼をし、それから左吾平がその山道を通るたびに出迎えてくれるようになり、森の出口まで送ってくれたとのことでした。

他にもいくつか武勇伝のある左吾平ですが、愛嬌のある失敗談がひとつあります。

仙台の向山は桜の頃ずらりと団子屋が並んだそうですが、この団子屋の中に大変団子作りが速くて有名な親父がいました。味もよかったです。甘党の左吾平はこの団子屋に足繁く通ったのですが、この団子屋の親父がある日風変わりな他流試合を左吾平に挑んだので

す。その内容は、左吾平が大刀を鞘から抜いて収める間に、団子屋の親父は左吾平の大刀の刃に餡子をつける。餡子をつけ損ねたら今後一切団子代は貰わない、というのです。

それを聞いた左吾平は、「はっはっは、おもしろい、団子屋と剣術屋の試合では然程見世物にもなるまいが、まあよからう」と自信満々で団子屋の親父の挑戦を受けたそうです。双方身構えよろしく、やあっ！と気合も鋭く大刀を抜いた瞬間電光石火、パチリと刀身が鞘に収まる。親父の抜いた餡子のヘラも、目にもとまらぬ速さで鍋に収まった。どちらも自信満々、一閃目にもとまらぬ速さです。

左吾平はにやりと笑い、「どうだ親父、餡子がついたか」と尋ねると、親父も満面の笑みで「へい、つきましたでしょうや、どうか刀を抜いてお調べ下さい」と。左吾平はにわかに不安になり刀を抜くと、なんとこれは意外、刀身の中ごろから切っ先までべったりと

餡子が塗られているのです。一時はぼかんと口を開けて驚いた左吾平でしたが次第にふふ、と笑い、「やあ親父殿、これはこれは左吾平見事に一本参ったぞ！いやまことに大したものだ！完敗でござる！」と気持ちよく笑い始めたとのことでした。

数々の逸話が残る三尺左吾平ですが、中年後は伊達家の直参として青葉城下に邸宅を賜り高禄を受けるようになったとのことでした。

今回は、私の故郷松山に伝わる昔語りを書かせていただきました。この場をかりて、執筆を勧めてくださったKさん、ペンネーム（雅号）を考えてくださったMさんに深く感謝いたします。

皆さんの故郷の話や、新生園のお話を、ぜひ私にも教えて下さい。宜しくお願い致します。

パネル展・屋台まつり

平成25年11月7日～8日



－ やきそば屋台 －

－ 寿司屋台(まとい寿司さん) －

渡し船

今野 きよし

去る十月二十一日河北新報朝刊に『矢切の渡し元船頭杉浦正雄氏、老衰のため死去』の記事が載っていた。

渡し船というと七十年前も前の事が思い出される。まだ小学六年生のとき、おばさんの家に用事があつて行つたところ、今晚泊まつて行け、明日涌谷に連れて行くからと云われ渡し船に乗せて貰つたのが始まりである。

おばさんの家の裏に鳴瀬川があり、土手にそこから登つて、一キロ位上流に行つたところに渡し場があつた。

土地の人たちは船場と呼んでいて、土手の下に小段があり、そこから小段に向かつて十

本位柱が立ててあり、ワイヤーロープを張つて、ロープを伝つて船を操つていた。

船頭の方は川向こうに住んでいたので大声を出して「オー」と呼ぶと返事が返つて来た。船頭の方はゆつくり歩いて来て、船場まではやや時間がかかった。おばさんは待ちきれなくなつてイライラしていた。向こうは聞こえないから平然としていて、のんびりとした良い時代であつた。

やつと船に乗せて貰い船をこぎながら世間話をして今で云うコミュニケーションがとられていた。

船から降りて少し歩いて本通りに出た。おばさんは部落の話をしてくれた。ここは福ヶ袋と云つて隣の家の方と親類だとか聞かせてくれた。

少し行くと和田田沼という部落で、この家では六町歩も田を作つていた農家である、今は朝鮮の役所に勤めているとか云つていた。

田圃道を二キロばかり行つたところで、小田田発石巻行きの陸羽東線の踏切を渡り、涌谷町の町に入った。

大きな火の見櫓が立っており警察署だったか消防署だったかは、はっきり覚えていない。

町中の金升という店に行つた。戦時中のため物の無い時代に砂糖を売っていた。一人一袋ずつ五銭か十銭であつた。行列に並び子供の私でも一人に数えて売ってくれたが、おばさんに早く早くと急かされ、他人のふりをしていれば良いのにと子供心にも心配した。それでも家族だから売らないとは云われなかった。

昼食はうどん屋に行きうどんを食べさせて貰つた。あがり場に靴をはいたまま腰かけ、お膳にうどんとナメタの煮魚が添えてあつた。魚は注文しなくとも出してくれた、食べない人はうどん代だけ払うと良いと云つていた。

昼食を済ませ、元涌谷の大橋を渡り横路に入った。マッサージ師の南部忠七さんと云う人の家であつた。奥さんは祈祷師であると云うが、私の居る間には拝んで貰いに来る人は無かつた。マッサージ師はおばさんと四方山話を語り、ゆつくり揉み始まつた。話の内容からおばさんの後ろの家の親類の様子で、話はずみ一時間以上もかかった気がした。

私が行つて大分時間が経つた頃、行商の男の人が来て場所を借りて昼食を取つていた、昼食を済ませると帰つて行つた。

夕方になつたので奥さんが食事の用意を始めた。コンロにマッチをすつて炭火をおこし鍋をかけた。私は、子供心にも火が大丈夫だろうかと気がかりであつた。奥さんは平気で煮炊きに精を出していた。旦那さんは「火、大丈夫か」と声をかけていた。忙しいおばさんも話が弾むと三十分でも一時間でも話に夢中になつて、それからいとまこいをして、五、

六キロの道を歩いて家に帰った。

帰宅するとおじさんに一日の出来事の一部始終を話して聞かせた。おじさんも息子も仕方なく話を聞いていた。

帰りに船に乗ったことも、夜はおばさんの家に泊まった事も記憶は定かでない七十年も前の事を思い出し、元船頭さんの亡くなられた記事を見て記憶をたどりながら記した。



敬老の集い
門脇陸男歌謡公演
— 平成25年9月13日 —



「祝い船」など代表曲9曲を唄っていただき、楽しいひと時を過ごしました。